

宮城県 加美町 廃校利活用事例



宮城県 加美町

OVER VIEW 加美町の概況

位置 宮城県の北西部
 人口 23,215人
 地勢 面積 460.67km²
 面積の約7割が山林
 交通 高速道路・鉄道 なし
 大学 専門学校含めなし



CLIMATE 自然と共に

四季彩豊かで
アウトドアアクティビティに富む

“加美富士”とも呼ばれる薬菜山をはじめ、自然の息吹を感じられるスポットがいっぱい。

近年は、ロードバイクやカヌーなどアウトドアスポーツが人気。



MUSIC 音楽を奏で 音楽を育てる町

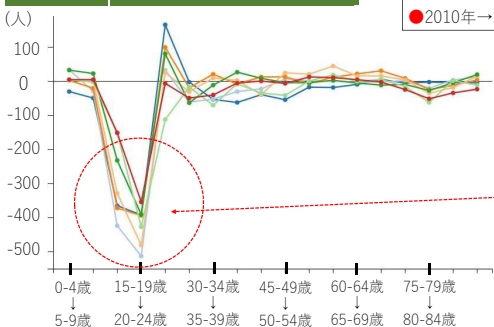
音楽の町の象徴
バッハホール

国内有数の音響効果を誇る**バッハホール**を中心に、音楽を通じて人と人とのつながりを深め、文化色の濃い豊かなまちづくりを進めています。



MOVE MENT 年齢階級別人口移動の状況

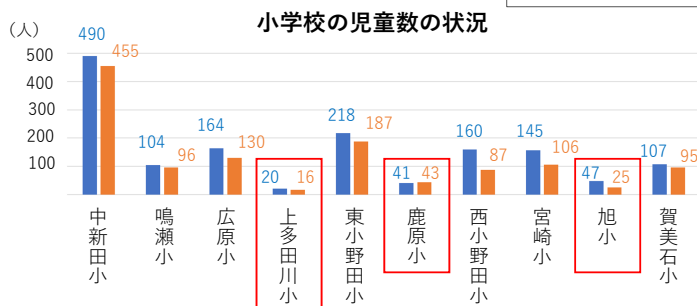
● 1980年→1985年 ● 1985年→1990年
 ● 1990年→1995年 ● 1995年→2000年
 ● 2000年→2005年 ● 2005年→2010年
 ● 2010年→2015年



10代後半から20代前半（進学・就職層）における転出超過が圧倒的かつ長期化している。

CIRCUMSTANCE 廃校利活用の経緯①

■ 合併時 H15.4
 ■ 10年後 H24.4
 □ 複式学級校



CIRCUM STANCE 廃校利活用の経緯②

複式学級の解消
～ 加美町立小・中学校再編の基本方針（抜粋）～

- ① 適正規模での教育環境
 - ② 幼稚（子ども）園・小学校・中学校における教育の一貫性
 - ③ 保護者の過半数以上が単式学級を希望
- ▶ H27.4.1を目途に、地域住民の十分な理解と協力を得て推進

COMMITTEE 上多田川小学校跡地等利活用検討委員会

利活用の方策について検討・報告

構成 地元代表など10名
委員長 公立大学准教授

開催 10回（H25.7～H27.1）
・住民アンケート
・先進地視察
・ワークショップ等



利活用の方向性を報告（H27.3）

- ◆ 福祉施設
- ◆ 交流・教育施設
- ◆ コミュニティ施設

POLICY 音楽を仕事に

地域資源の音楽により
人の流れと仕事の創出

地域に根付く**音楽を切り口**として、演奏家ではなく、楽器の修理や製造、ピアノの調律、音楽療法など音楽を仕事に結びつける学校（**教育施設**）として利活用



APPROACH 音楽教育施設への道

音楽の仕事に関する
教育事業者の誘致

音楽の教育施設として方針付けたため、**公募ではなく行政から直接**、音楽教育事業者へアプローチ

好きな音楽を一生の仕事にをテーマに掲げる**国立音楽院**がヒット！



国立音楽院

昭和42年設立
20学科に約400名が在籍
鳥取県南部町に分校設立（H25）

MATCHING 音楽による地方創生

加美町
音楽のまちづくり

廃校を音楽学校として利活用し、音楽の夢を志す若者を呼び込み、仕事につなげる

音楽による
地方創生

国立音楽院

音楽と福祉による地方創生

公共施設を利活用して地方での文化的な音楽事業の展開と、魅力ある音楽の仕事づくり

分校新設に合意

ROLE 利活用への役割

加美町

- ・教育、通学環境の整備
廃校施設の改修、備品整備
スクールバスの貸与
- ・学生向け新生活支援
家賃補助、地域商品券支給

廃校の利活用を地方創生事業として、地域再生制度など国の支援を積極活用

国立音楽院

- ・地域の理解
学校説明会、地域懇談会
- ・移住サポート
提携アパートの確保
- ・分校新設周知
学校ガイダンス、高校・企業訪問

RENOVATION 廃校からの再生

音楽技能習得施設として再生

音楽技能習得施設

ピアノ調律室、ヴァイオリン製作室、ギター製作室、管楽器リペア実習室、バンドスタジオ、アンサンブルルーム、DTMルームを整備

国立音楽院が施設を利用して音楽教育事業（宮城キャンパス）を展開



13

TROUBLE 苦労したこと

①地元住民の合意

↳ 地域からの提案を尊重した利用方法のため、反発は少なく、むしろ、若者が来ることに期待する声が高かった。

* 事業者による地区説明会や地区懇談会、メモリアル撮影会等の開催

②施設の改修

- ↳ 国の地域再生制度を活用
 - ・財産処分の弾力化
 - ・地域再生戦略交付金の活用

▼
地方創生推進交付金への再編によりハード事業への充当が不可

▼
施設改修：起債（予定外の財政負担）
備品整備：地方創生加速化交付金等

14

MERIT 廃校活用のメリット①

地域住民のメリット

- ・地域シンボルの維持
- ・学生と地域の交流
 - 草まとめ選手権
 - 若返りリズム
 - 学生の胃袋応援等
- ・施設でのコミュニティ活動



15

MERIT 廃校活用のメリット②

行政のメリット

- ・収益施設として
 - 年間300万円の使用料収入
 - スタジオなどは一般も利用可
- ・学生の移住
 - 65名中36名が町内で生活
- ・地元雇用、地域の労働力



16

MERIT 廃校活用のメリット③

地域創造大賞（総務大臣賞）

パッサホールが音楽と福祉のまちづくりの拠点として、市民オーケストラの育成や幼稚園等へのアウトリーチのほか音楽学校の誘致など、音楽による地域再生を推進していることが評価



17

TOGETHER 共に歩む

地域・事業者・自治体が歩調を合わせて

学校は、長い歴史や文化を守り続け地域の愛着によって支えられてきた施設です。

廃校は、地域にとって大変さみしいことではありますが、終わりではなく新しい歴史の始まりにもなります。

地域により沿った利活用こそ、成功へのカギだと思います。

18